

# 電気通信大学こども食堂2018実施報告

鈴木美穂<sup>1)</sup>、中原有麻<sup>2)</sup>、大河原一憲<sup>3)</sup>

- 1) 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 修士1年
- 2) 電気通信大学 II類 計測制御プログラム 学部2年  
アメリカンフットボール部トレーナー
- 3) 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 准教授  
アメリカンフットボール部顧問・監督

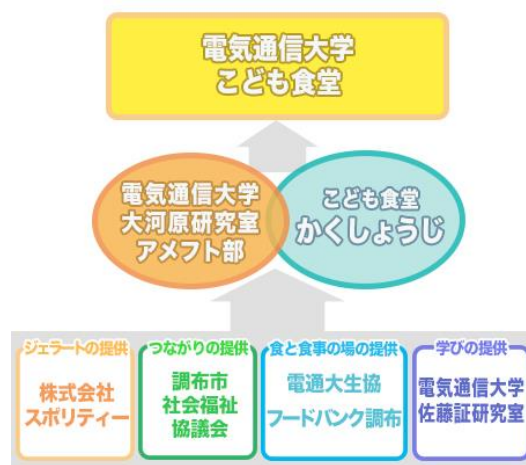
## 1. はじめに

「こども食堂」はこどもが1人でも安心して通えて、低額、もしくは無料で食事をとれるコミュニティの場としてスタートしました。このように、こどもの食事難や孤食への対策として始まったこども食堂ですが、現在では地域の拠点としての機能をもつなどその意味合いは多様化してきています(参考:農林水産省:子供食堂と連携した地域における食育の推進)。また、近年、全国に数多くのこども食堂が立ち上がっており、形態や目的もさまざまに運営されています。

昨年の2017年9月に開催した「電気通信大学 こども食堂」では100名近くのこども達とその保護者の方々にご参加いただき、たくさんの地域の皆様と交流することができました。このこども食堂の運営に携わることを経て、活動する私たち大学生自身も充実感や達成感を得ることができました。今年も引き続き、地域のこども達のことを知り、実際にイベントに取り組むことで、私たち自身も成長していきたいと考え、開催することとなりました。

一日限りのイベントでは、こどもたちの食事に関わる問題への直接的な解決策とはいえないかもしれませんが、イベントという形式だからこそできる事もあります。昨年の経験から、大学内の施設で食事や運動をしたり、大学の研究に直に触れたり、大学だけではない地域の非営利団体や企業とのコラボレーションがあったり、イベントだからこそその経験をこどもたちと共有することに意味があると考えました。そこで、電気通信大学こども食堂では、こども達と大学生と一緒に身体を動かし、同じご飯を食べて楽しい時間を過ごすと同時に、大学生はどんな人たちで、大学とはどんなところなのか知ってもらい、「食」をきっかけにこども達の身体、そして心も元気になるようなイベントにすることを目的としました。

電気通信大学こども食堂プロジェクトチームは、「電気通信大学こども食堂2018」のために、こども食堂かくしゅうじと電気通信大学大河原研究室・アメリカンフットボール部のメンバーで立ちあげました。また、本プロジェクトを成功させるため、調布市社会福祉協議会、株式会社スポリティー、電気通信大学生協、フードバンク調布、電気通信大学佐藤証研究室といった多くの方々にサポートいただきました。



プロジェクトの構成メンバー

## 2. 開催資金の調達など

本イベントは出来るだけ多くのこどもたちに参加してもらう為に無料で開催することを目標としていました。昨年の費用は主催者が自己負担したため、継続して開催するための資金調達が課題となりました。そこで新しい試みとして、クラウドファンディングに挑戦することとなりました。

### 1. クラウドファンディングによる運営資金の確保

イベントを通じて地域の皆さんとの交流を保ちたいという考えから、地元密着型クラウドファンディングFAAVO 東京調布・府中を通じて私達の活動に共感してくださる方々からの支援を募りました。何度も話し合いを重ね7月1

日、約2ヶ月間の資金募集が始まりました。初めての挑戦ということもあり目標額が集まるのか不安もありましたが、そんな心配を吹き飛ばすほどの皆様からのご支援、暖かいメッセージによって希望へと変わりました。結果として、目標額である137500円を上回る160000円を集めることができました。この結果は私達にとってイベントを成功させるための大きな原動力となりました。ご支援のおかげで参加者全員が無料でイベントへ参加するという目標を達成することができました。ご支援くださった方々にはお礼状とささやかながら返礼品を送らせていただきました。イベントを通し、参加者と主催者にとって、それぞれの目的を達成することができたことがご支援、応援して下さった皆様への1番の恩返しであったと思います。



アメフト部による呼びかけ用の写真



クラウドファンディングサイト内における本プロジェクトのトップページ



はがきサイズのポスターで告知

## 2. 食料品の確保

調布市フードドライブを通じてイベント当日の飲み物やお菓子などのご支援を受けました。調布市が主催で年に数回開催されているフードドライブは、一般市民や企業などが余っている食品を寄付し、それを地域の団体や福祉施設などが提供を受ける仕組みです。実際にフードドライブに参加し沢山の食品が寄付されている現実を知り食品ロスの多さを実感しました。子ども食堂という食事を提供するイベントを行う私達にとっても他人事ではないと感じました。また、2018年4月に本格的に活動を開始したフードバンク調布からもお菓子などを提供していただきました。



大河原研メンバーによる呼びかけ用の写真



調布市フードドライブでの食品提供の様子



### 3. 参加者の募集

小学生を対象に親子合わせて定員 100 人とし参加者を募集しました。本学の近隣の小学校である石原小学校、第一小学校、深大寺保育園、こども食堂かくしゅうじでチラシを配り呼びかけを行いました。参加者が集まるか不安な面もありましたが当日は 100 名を超える参加がありました。スタッフとして事前にお手伝いに参加していたこども食堂かくしゅうじからの参加や昨年参加してくれた子などが私達のことを覚えてくれていたことが印象的でした。今回も子供達にとって少しでも記憶に残る時間となってくれたら良いなと思います。



こども食堂かくしゅうじの手伝いに参加しました

### 4. 当日の様子

#### 1. タイムスケジュール

15:00 受付開始

15:15 運動

16:30 屋上プランテーションの見学

17:15 食事会

18:15 終了

当日は総勢 100 名以上の調布市在住・在学の児童及びその保護者が集まり、電気通信大学こども食堂 2018 を開催することができました。プログラムは 1. 電通大アメフト部とのゲーム、2. 屋上プランテーションの見学、3. 参加メンバー全員での食事という三部にわけて行われました。



こちらで受け付けします！



お兄さんお姉さんと説明を聞いています

#### 2. 電通大アメフト部とのゲーム

電気通信大学こども食堂のスタートです！

電通大アメフト部のアメフト実演の見学の後、こどもたちは数名でチームを組み、チームごとにゲームをしました。アメフトのボールを用いたミニゲームや、アメフト部員とのキャッチボールなど、実際に体を動かしながらボールを使って遊びました。ミニゲームが終わる頃にはこどもたちも部員も汗だく！水分補給を挟みながら思いきり身体を動かしました。



みんな真剣に聞いています



まずはチームに分かれて体操から！





ボールを上手にかごに投げられるかな？



この実はどんな種から作られているの？



今回のイベントには、調布市で活動されているカレーヒーローの超辛グランマサラーさんにご参加いただき一緒にイベントを盛り上げていただきました。



屋上いっぱい生き茂っている様子を興味深そうに見学しています

### 3. 屋上プランテーションの見学

電通大佐藤証教授の研究室が行っている都市型プランテーションを見学しました。一見して普通のビルの屋上に突然現れる緑の風景に驚く子どもたち。実際に電通大でとれた野菜を手に取り、植物が育つ様子を観察しました。普段自分が食べているものがどうやって育っているのか、しっかり観察することでこの後のご飯がよりおいしく感じられたのではないのでしょうか。

### 4. 参加メンバー全員での食事

身体を動かし、プランテーションの見学後は電通大生協食堂にてみんなで食事を楽しみました。子供達の大好きなハンバーグカレーをいただきました。食事の途中にはビンゴ大会を行いました。数字が読み上げられるたびに一喜一憂する子供達、また景品にはフードドライブでいただいたお菓子をプレゼントしました。食事の最後は株式会社スポリティー様から地元の野菜を使用したジェラートの提供を頂きました。小松菜味とピーマン味の2種類がありました。地元の食材を身近に感じられる貴重な経験となりました。



佐藤先生の説明を聞いています



みんなで食べるカレーはおいしい



ジュース飲む？



お兄さんが何か聞かれて答えています



わたしのビンゴは当たっているかな？



地元の小松菜で作った無添加でおいしくて  
健康に良い野菜ジェラート

## 5. まとめ

こどもたちからは「楽しかったからまた来たい!」、ご家族の方からは「こどもたちが楽しんでよかった」等の声も聞こえてきました。今年で2回目となる電気通信大学こども食堂ですが、今年は初めてクラウドファンディングを活用してのイベント開催となりました。開始当初から多くの皆様よりのご支援をいただき、少しずつ輪が広がっていることを嬉しく感じております。

今後も電通大や電通大アメフト部をより知っていただけるように取り組んでまいりますので、引き続きご支援よろしくをお願いいたします。

### 【開催日時・場所】

2018年9月8日(土)・電気通信大学

### 【主催】

電気通信大学アメリカンフットボール部

<http://www.crushers.club.uec.ac.jp/>

電気通信大学大河原研究室

<https://www.uec.ac.jp/research/information/opal-ring/0006120.html>

こども食堂かくしょうじ

<http://www.syokudou.kakushoji.or.jp/about/>

### 【協力】

調布市社会福祉協議会

<http://www.ccs.w.or.jp/>

電気通信大学生協

<https://text.univ.coop/puk/START/uec/index.html>

電気通信大学佐藤証研究室

<http://satoh.cs.uec.ac.jp/ja/index.html>

フードバンク調布

<http://foodbank-chofu.org/>

株式会社スポリティー

<https://spollup.jp/>

### 【プロジェクトリーダー】

鈴木美穂 電気通信大学大学院情報学専攻大河原研 1年

中原有麻 電気通信大学Ⅱ類計測制御プログラム 2年  
アメリカンフットボール部 トレーナー

漆畑輝 電気通信大学Ⅱ類情報通信工学プログラム 3年  
アメリカンフットボール部 副将

早川智香 東京家政大学栄養学科栄養学専攻 4年  
アメリカンフットボール部 栄養スタッフ

影山奈緒 東京家政大学栄養学科栄養学専攻 4年  
アメリカンフットボール部 栄養スタッフ

ほか 大学生・大学院生は、大河原研メンバー6名  
アメフト部メンバー41名で実施しました。